

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4094400019		
法人名	株式会社 パラディ		
事業所名	グループホーム 長寿の里 なかばる	ユニット名	本館
所在地	福岡県糟屋郡粕屋町甲仲原1-20-23		
自己評価作成日	平成28年7月23日	評価結果市町村受理日	平成28年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成28年8月8日	評価確定日	平成28年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念のもと、入居者様主体の暮らしの支援に努めている。入居者様、ご家族様、職員、地域の方々と共に支えあい、地域に根付いた事業所を目指して取り組んでいるが、地域へ出向いたり、地域の方々に関わって頂く事でこれまで以上に交流を深められ、地域密着となりつつある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“長寿の里 なかばる”は、母体の会社である“パラディ”の理念である“王冠(最高のおもてなし)”を目標に、職員の接遇面のレベルアップを続けてこられた。職員の入れ替わりも経験してこられたが、全職員が結束して入居者の要望を大切にされた支援を続けている。外出支援の機会も増やし、馴染みのルクルに職員と行かれたり、馴染みのパン屋でカボチャパンを買われる方もおられる。家族との初盆参りの機会も作られ、知人の方々と温泉旅行等も楽しまれている。地域の一員としての活動も広げており、粕屋町役場が開催している認知症カフェに積極的に参加し、自宅で介護されている地域の方の悩みを聞き、できる範囲でアドバイス等をさせて頂いている。今後も職員の勉強を続け、早期発見・早期報告に努め、専門職としてのレベルアップに繋げていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、理念を唱和しており、全職員が理念のもと入居者主体のケアに取り組んでいる。	「ながら挨拶はしない」「主体は入居者」である事を申し送り等で確認しており、理念の通り、明るい笑顔で挨拶が行われている。理念には「職員が黒子になって」と言う意味もあり、「地域と共に支えあいます」と言う思いも込めており、地域交流にも力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや敬老会参加への継続と、散歩時に地域の方や子供達と挨拶や会話を交わしたりしている。	入居者も地域の夏祭り等に行かれている。粕屋町役場が開催している「認知症カフェ」に積極的に参加することで、地域の方との交流の機会になっている。元旦にはホームに子供獅子舞が来て下さり、ハロウィンとクリスマスの時は英会話教室の子供達と過ごす事ができ、入居者の方々も喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症カフェ」に参加し、自宅で親を介護されている地域の方の悩みや話を聞き、出来る範囲でアドバイス等を行っている。又、運営推進会議で認知症について勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催しており、毎月の活動報告や新規入居、退居者、入退院者等の報告もしている。ご家族や地域の方から出た意見に関し実践できる事は取り組むように努めている。	他の地域の民生委員や区長等にもホームを知って頂きたいと考え、隣の地域の方々に声かけを行い、多くの方に参加して頂いている。毎回テーマを変え、宮崎医師の講話や粕屋警察署の方の講話、粕屋町の歴史等も参加者に教えて頂く機会が作られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の運営やサービス状況等を担当者にその都度相談や報告を行っており、良好な関係作りを努めている。	統括管理者が町の地域支援推進員等の活動を続けている。地域密着型サービス事業所の入居者の家族向けのアンケート依頼を受け、家族の方々に協力して頂いた。28年3月から町主催の認知症短期集中会議(2か月に1回)に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内研修、中級・上級職員研修で身体拘束についての勉強会を行っている。日常のケアにおいてもその都度職員に指導を行っており、身体拘束は行わない方針である事を伝えている。	ホーム会議や申し送りで、身体拘束にあたる行為をしていないかを振り返り、職員の意識付けを続けている。転倒を繰り返す方には、家族の了承を頂き、リビングに近い居室に移動して見守りを強化し、居室の床にウレタンマットを敷く等の対応を行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修、中級・上級職員研修で虐待について勉強会を行っている。又、常に入居者様の全身状態の観察に努めている。日頃のケアにおいてもお互いで気をつけ合うよう伝えている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修で権利擁護や成年後見人について勉強会を行っているが、理解を深めていくためには定期的に開催する必要がある。新規入居者で身元引受人が取れない方に対して、ケースワーカーや包括と連携を行い、制度の活用に取り組んでいる。	上級職員のキャリアパスの研修の中で権利擁護の勉強をしている。制度を利用している方はおられないが、入居時に家族に制度の説明をしている。今後も制度に関するパンフレット等の準備を行う予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や契約時には料金やサービス内容等について詳しく説明を行っており、その都度疑問や不安な点を尋ねている。又、解約時や法改正時は時間を設けてご家族様に説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時等に御家族様からの要望や意見が聞けるよう、日頃から職員と御家族様とのコミュニケーションを多く行うように努めている。ご家族様から出た要望等は出来る限り反映に繋げるように努めている。	面会時や電話等で暮らしぶりの報告を行うと共に、家族の要望を伺っている。入居者の活動内容(レク活動など)の充実等の要望も頂き、毎月の外出レクや個別レクを取り入れている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議・ケアカンファ時に職員からの意見や提案を聞いている。それ以外にも日々の業務等でも職員からの要望や意見を聞き、すぐに取り組みそうな事に関しては、見直しや検討を行っている。	代表、福岡統括、管理者などは職員の要望を大切にしている。入居者のユニットの移動を含め、職員の意見を聞いており、業務の見直しや検討も行っている。職員の心身状態やモチベーションを把握し、必要時は個別に話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は管理者及び各職員の勤務状況等の把握に努めており、可能な限り職場環境等の整備に取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢性別問わず、やる気と明るく真剣に取り組む姿勢を重視している。法人の方針として、障害者雇用も行っている。職員1人1人の能力ややる気に応じて役割等を持ってもらい、向上心に繋がるように働きかけている。	採用時の面接は時間をかけ、仕事のプラス面とマイナス面を伝え、“仕事へのやる気”を確認している。年齢幅も広く、障がい者雇用も続けている。必要に応じてユニット間の人事異動も行われ、職員個々の能力(郷土料理が上手、真面目さ等)を發揮して頂いている。	自分の目の前の仕事に集中するあまり、優先すべき業務に気付かない時があるとの事。今後も職員個々の課題分析と対策を検討し、更なる目標に向けてレベルアップできるように努めていく予定である。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権についての社内研修を行っている。申し送りやホーム会議・ケアカンファ時にも言葉使いや関わり方も含めた上で入居者様の尊厳について職員に伝えている。	日々の業務の中で言葉遣いの大切さを職員に伝えており、「寝かせた」ではなく、「寝て頂いた」等の言葉の使い方丁寧を指導している。ホームの会議で接遇を伝えており、「ながら挨拶はやめよう」「私たちは黒子」「主役は入居者」等を共有している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた社内研修を行っており、職員の能力に応じた社外研修にも可能な限り参加している。又、日常の業務の中で、職員の能力に応じてコーチングやティーチングによる指導を行なっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び計画作成担当者や介護主任が町の地域包括主催である「かすけん」等の研修会や病院主催の地域連携懇親会に参加している。又、相互訪問を行い連携に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを常に図り関わりを多く持ち、会話の中で不安や困り事の原因は何かを探り、精神面や身体面、環境面等を考慮しながらケアに取り組んでいる。否定的な言葉は使用せず安心できる言葉かけに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活状況を聞きながら、困り事や不安となっている事、入居後の要望等を伺っている。入居後も面会時等にご本人の様子をお伝えしながらコミュニケーションを図り、信頼関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で出来るだけ相談されている御家族様との意思や思いを共有し、入居時の担当者会議等で支援の見極めの確認を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活動作においてご本人に出来る事はしっかりご本人に行って頂いており、事業所内の家事等の手伝いも各入居者様の能力に応じて行って頂いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じて御家族様と一緒にケアを行ったり、必要な物をご家族様で用意して頂いている。又、ご家族様の協力のもと自宅への外出支援も行って頂いている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の身体レベルに応じて、御家族様の了承の上、友人との旅行や外出の継続支援を行っている。又、御家族と一緒に定期的に自宅へ散歩を兼ねて外出を行ったり、行きたい場所への個別の外出支援を行っている。	入居者個々の生活歴を把握している。友人との面会を楽しまれたり、友人と一緒に温泉旅行に行かれる方もおられる。馴染みのパン屋に職員と外出したり、馴染みのルクルに職員と行かれている。自宅に帰り、自宅の庭のミカンをお土産に持ち帰って下さる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テレビ鑑賞しながら気の合う方と談話をしながら過ごされたり、活動時には一緒にレクレーションに参加して頂いたり、会話をされる際も出来る限り多人数で話せるように話しをふったりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も運営推進会議に参加して頂いて頂いている御家族様がおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様お一人お一人の表情や言動に気を配り、どのような思いを抱いているか探りながら思いや希望を聞き、プランに導入している。困難な場合は、本人の思いを汲み取り、カンファ等で情報を共有し本人本位のケアを行える話しあっている。	入居者との信頼関係を深めるために、日々の会話や関わりを大切にされており、ご本人の希望や意向を聞けるように努めている。アセスメント表にはご本人の希望やしたい事を記入し、その人らしい暮らしの支援に努めており、今後はセンター方式も活用していく予定である。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様からこれまでの生活歴等をお聞きし、入居後も本人やご家族様から情報収集に努め、知りえた情報はカンファや申し送り等で情報共有を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で入居者様に小さな変化はないか等常時状態観察や職員間の情報共有に努めており、又、レクやお手伝い等もいつも同じ事ばかりではなく、時々内容を変えてみるなどの対応を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に本人及び御家族様に状況報告を行い、意向や要望をお聞きし、ケアカンファでや職員間で意見を出し合い話し合いのもとで作成している。	毎月のモニタリング、申し送り、ケアカンファの時に体調や要望等を把握している。地域との交流が継続できるように、地域行事等を盛り込まれている方や、友人との付き合いの継続支援として、旅行や外出を盛り込むなど、入居者個々の計画を作成している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、ご本人の言葉も入れ状況が分かるように職員が対応した内容も含めて記載し、業務前に全入居者様の記録と管理日誌を読みケアを行っている。又、ケアプランのサービス内容を行った時も記載し実施状況を共有している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の心身の状態やご家族様のその時々状況に応じた対応に努め、出来る限り柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加の継続と、散歩時に子供や地域の方が気楽に挨拶や言葉を交わして頂いたり、家族会等の事業所行事にも快くボランティアに来て頂く等、地域資源を活用した支援が行えている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医への継続希望、事業所の協力医療機関への希望等、臨機応変にかかりつけ医への対応を行っている。又、緊急時の受診先に関しても、宮崎内科とご家族様との話し合いを行い、受診先を確認し希望に添えるようにしている。	24時間対応して下さる協力医療機関に変更される方が多い。往診専門の宮崎先生(内科)や訪問歯科医との連携もあり、専門外は紹介状を書いて下さっている。職員や家族が通院介助し、受診結果を共有しており、看護師の訪問(週1回)もあり、職員の安心になっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師巡回やかかりつけ医の訪問診療時に入居者様の状態を報告している。看護師やかかりつけ医との24時間連絡体制を整えており、入居者様の状態に応じてその都度状況報告と受診が必要な方への支援が行えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時に看護師に状態を確認し、電話にてソーシャルワーカーにも状態を聞き取っている。職員による定期的な面会と、退院後の受け入れがいつでも出来るように体制を整えるようにしている。又、退院前のカンファにも参加している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携体制加算の同意を得て、重度化に対する指針を説明している。又、身体状態に応じてかかりつけ医、ご家族様との話し合いを行い、看取りケアを行う際も本人の意向を確認しながら、ご家族様やかかりつけ医との話し合いを行い、今後の方針を決め、ご家族様の要望に臨機応変に対応できるように努めている。	24年度から看取りケアが行われている。ご本人の意思決定を大切に、「ここにいたい」等の思いを把握している。主治医、家族と話し合い、「延命治療はしない」「胃瘻はしない」等の家族の要望も伺っている。統括からの「悔いの無いように」と言う言葉を胸に、誠心誠意、ホームでできる事を行わせて頂いている。	今後も更に早期発見、早期対応に努めていきたいと考えている。全職員が入居者個々の体調変化に気づけるように観察力を養い、看取りケア等の勉強を行うと共に、報告力も高めていきたいと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	意識消失が起こる入居者様の対応等その方の状態に応じた対応に努めている。事故発生時等の応急手当をすべての職員が確実に習得できてはいない為、今後定期的な勉強会や訓練を行っていく。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年間2回行っており、災害時等は緊急連絡網で職員全員に連絡する体制を取っている。地域の防災訓練にも参加し、協力体制を依頼している。	指示ができる職員の育成に努め、訓練のシナリオを作成し、防災委員が当日の指示者を決め、スムーズに避難誘導できている。甲仲原地区防災訓練(年1回)にも参加し、地域の方(2名)がホームの援助者になって下さっている。水、電池、オムツ等を準備し、本部でも非常食品等を備えている。	今後も災害に対し、危機管理意識を高めていきたいと考えている。夜間を想定した訓練を行っていく予定であり、防火管理者を中心に夜間想定シナリオを作成する予定である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは敬語や丁寧語で接し、命令口調や指示語とならないようホーム会議、申し送り、日頃の業務の中で常に伝えており、入居者様の立場になって接するよう話している。	言葉遣いに注意を払い、命令口調や指示語にならないように職員に伝えている。居室に入る時も、ご本人に伝えて入室し、情報管理も徹底し、「自分の家族であっても漏洩しない」事を職員に伝えている。羞恥心に配慮し、同性介助も行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣の際に服を選んで頂いたり、水分補給時に飲み物を選んで頂く等、生活の中で自己決定できる場面や、本人の希望に添ったケアを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が主体である事を伝え、入居者様のその日の状態に応じた支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に服を選んで頂いているが、選ぶことが難しい方に関しては、服の着回しを考慮しながら支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切る、炒める等が出来る入居者様はキッチン内で手伝いを行い、盛り付けを主に行う入居者様等、その方の能力に応じた食事の準備や片付けを行って頂いている。	給食委員会が献立を作成しており、入居者の要望も取り入れている。代表が新鮮な野菜や魚を届けて下さり、入居者の方もホームの畑で野菜を育て、収穫して下さっている。包丁で料理をされる方もおられ、味見や盛り付け等をして下さっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表をもとに、1日の食事や水分摂取量の把握を行っており、食事や水分量が減っている入居者様に関しては、好きな飲み物や食べ物を摂取して頂く等の支援を行っている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の歯磨きを欠かさず行っており、ある程度自力で磨いた後は磨き直しの支援を行っている。ご本人・ご家族様の希望により、訪問歯科も利用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンに応じた排泄支援を行っており、下着に切り替えられそうな方はそのように支援を行っている。	職員はトイレでの排泄に努めており、リハビリパンツから下着に変更できた方もおられる。下着を着用して排泄が自立している方や、ご本人の希望で紙パンツを着用する方もおられる。誘導時は声かけのトーンに気を付け、羞恥心への配慮を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や個別運動等を行い、こまめな水分補給と野菜を中心とした食事を提供している。又、朝の申し送り時に排便状況を送り、その方に応じた下剤の服用を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1日おきに入っているが、希望があればなるべく希望に沿っている。また、その日の状態に応じ臨機応変に対応し、入浴の声かけも無理強いとしないようにしている。	お風呂好きな方が多く、入浴時間(午前・午後)の希望を聞くと共に、愛用の石鹸も使われている。入浴時は会話を楽しまれ、「草津良いところ」や「もしもカメよ」等の歌も聞かれ、職員も一緒に唄っている。裏の家の方から柚子を頂いており、柚子湯やみかん湯等も楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様の夜間の睡眠状況を記録に記載し、夜勤者からの朝の申し送り時にも詳細を申し送っている。日中居眠りが強い方等は、昼寝をして頂く等、臨機応変に対応を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の薬剤情報のファイルを薬箱横に置いており、常に薬の効用等が確認できるようにしている。又、薬の変更時は申し送り帳に記載し、朝、夕の申し送り時にも情報の伝達を行っている。		

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の能力に応じたお手伝いや手工芸等を行い、散歩や外出レクにて気分転換を図っている。	
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその方の状態に応じて近所に散歩へ出かけたり、馴染みのパン屋等に個別に外出したり、御家族様の協力のもと時々自宅へ外出される方もおられる。毎月の外出レクに踏まえ、更に外出する機会を増やしていく予定である。	ホームの畑できゅうり等を収穫したり、買物時はカートを押して下さる方もおられる。近くの地藏尊まで散歩したり、駕与丁公園でバラや桜などのお花見を楽しまれている。28年5月から外出レクも取り入れ、福岡タワーやトリアス久山(動物園)に行かれている。外出レクに行けない方は地域の夏祭り等に行かれている。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族様の希望で少額を所持して頂く場合もあるが、個人の預かり金は事務所金庫で保管しており、買い物や外出時等に使用して頂いている。	
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別に携帯電話を所持している方もおり、居室で自由に電話を掛けて頂いている。また、友人に手紙を送る方や、毎年家族に年賀状を書いて頂く等の支援を行っている。	
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな物音や不快な物音をたてないよう常日頃心掛けており、室内も暗くなりすぎず、適度な明るさに努めている。又、装飾品は手作りの物となるよう心掛けている。	テレビや音楽の音量、職員が立てる物音にも気を配り、入居者の方が不快にならないように努めている。温湿度に応じて気分の変調が見られるため、入居者に確認し、細めに温湿度調整を行い、座る場所にも配慮している。職員と一緒に手工芸作り等も行い、季節の飾りつけも楽しまれている。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビ鑑賞される方、気の合う方と談話をされる方、居室で過ごす方、ご本人の意志を尊重した支援となるよう努めている	
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自宅で暮らしていた頃に少しでも近付けるよう、使い慣れた家具や家族の写真等、自由に持ち込んで頂いている。	居室入り口に職員手作りの小さな着物や魚の飾り物を掛けている。テーブルやソファが置かれ、居室でテレビを見たり、ラジオやラジオでCDやカセットテープを聞かれたり、1人麻雀をされる方もおられる。お仏壇を置かれている方もおられ、職員と一緒にお茶、お水を供えている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーとなっており、廊下やリビング内、トイレ内等に障害となる物を置かないようにしている。装飾品も手作りの物に心がけている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				